

平成24年度 普及活動成果集



めざせ！！
元気な担い手
もうかる農業



平成25年3月
福岡県飯塚普及指導センター

目 次

1 平成 24 年度気象・農業生産の概況

(1)	1
(2)	2

2 普及活動の主な成果

(1)	6
(2)	7
(3)	8
(4)	9
(5)	10
(6)	11
(7)	12
(8)	13
(9)	20
(10)	15
(11)	16
(12)	18

3 普及活動

(1)	21
(2)	22
(3)	23
(4)	25
(5)	26

24

12

2

4

7

9

JA

24

24 28

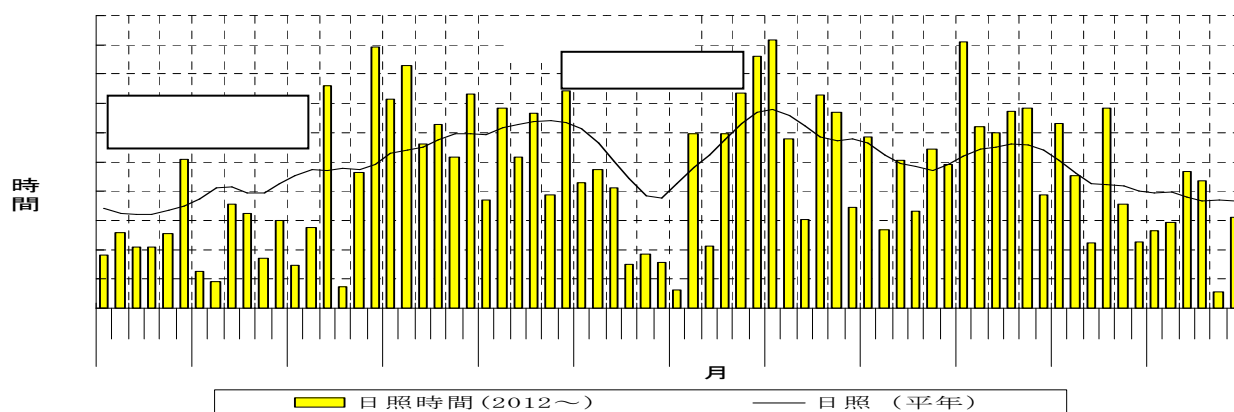
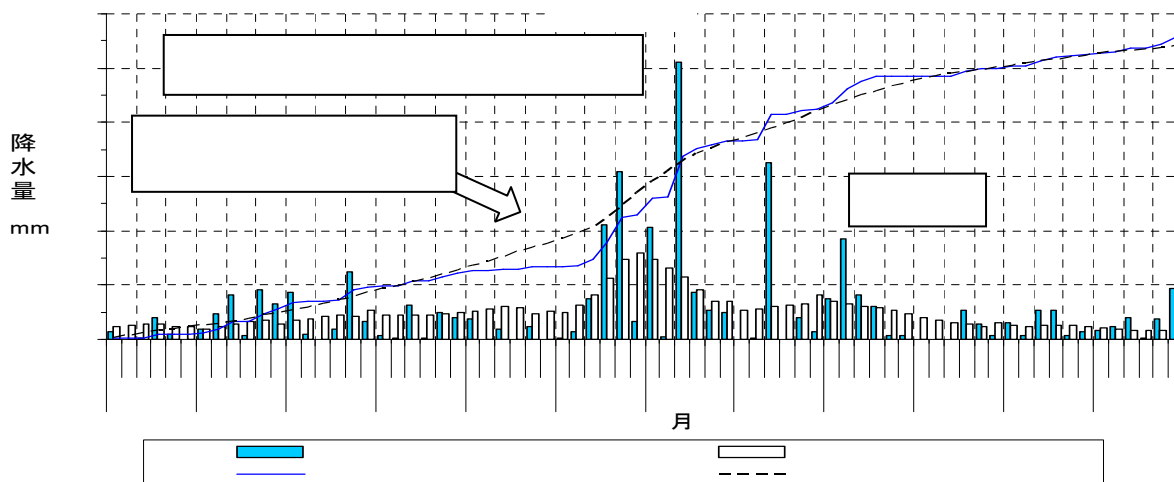
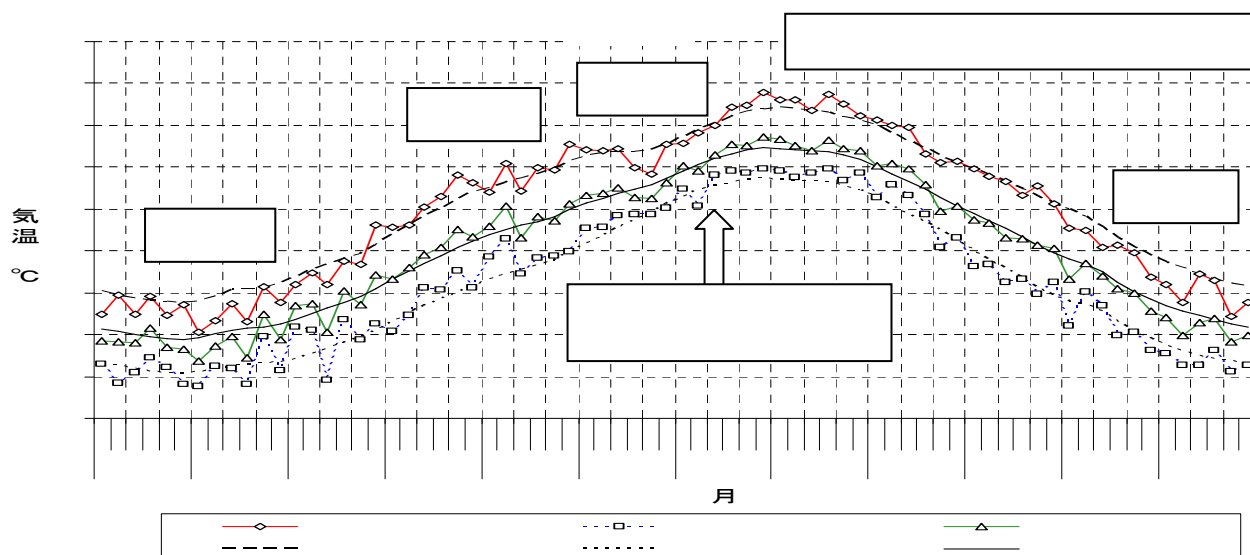
24

W2

25 3

1 平成 24 年度気象・農業生産の概況

(1) 気象概況



<気象災害>

(2)農業生産の概況

<普通作>

○平年並みの収量だが品質不良であった水稻

○品質は良好だが単収が低い麦(平成 23 年播種)

○単収が低い大豆

<野菜>

○良苗育成により、頂果房の収量が向上したイチゴ

○低温により冬期の出荷が減少したブロッコリー

○天候に左右されたアスパラガス

<花き>

○きびしい気象条件で苦労が多かったが、品種統一化で頑張ったキク

○安定出荷となったトルコギキョウ

○品質が安定したシンテッポウユリ

○共販出荷量が大幅に伸びたケイトウ

<果樹>

○順調に出荷量が増えたイチジク

○収量が平年並みに回復したブドウ

○冷蔵柿の出荷量を確保できたカキ

○糖度高く高単価で販売できたナシ

<畜産>

○県下一の頭数を誇る和牛繁殖

○自家育成による後継牛確保が進む酪農

12

JA

20
13 (11)

$$\begin{array}{cc} 20 & 90 \\ (&) \\ 12 & \end{array}$$

1



11



(2)地域を担う新しい農業者の確保・育成を目指してⅡ

		1	4
		24	
19			17

○背 景

りが

24

45

150

5

○対象概況

新

35 (21

24)

○活動内容及び成果

1 12

2

9

67

17

19



写真1 営農基礎講座「農業ビジョンを語ろう」

表1 主な部門別就農定着数

単位:名

	2	6	4	4	1	17

表2 市町村別青年就農給付金事業申請者数

単位:名

	4	4	2	4	2	3
						19

○今後の取り組み

(3) 認定農業者の経営改善支援

61	22	24	10	22
		71		

○背 景

○対象概況

316 24 189 59.8

○活動内容及び成果

22 20

3 7 5

22 24 10 21

61 71

○今後の取り組み

28 80

25

○重点支援農家を選定

○カウンセリング・コンサルテーション
による技術・経営指導



雇 用 型 経 営 の 育 成

※常時雇用(7ヶ月以上の雇用)がいる経営体

(4) 水田農業の持続的発展のための個別・組織経営体の法人化支援

～稲作を中心とした法人経営体の育成～

飯塚地域担い手育成部会は、稲作を中心とした個別大規模農家や集落営農組織を対象とした『水田農業経営力強化事業(県単独新規事業)』を活用し、法人化を目標に経営基盤強化の支援を行いました。その結果、新たに個別大規模農家で4戸、集落営農組織で2組織が法人化し、今後とも法人数の増加が期待されます。

○背景

水田農業の担い手の高齢化が進行する中、水田農業の持続的発展のためには、稲作を経営の中心とした個別大規模農家や集落営農組織の育成と、永続的な経営のため法人化が必要です。そこで、平成23年度から県単事業『水田農業経営力強化事業』を活用し、研修会の開催や専門家の派遣等により、経営改善と法人化に向けた取り組みを強化しました。

○対象概況

個別大規模農家 180戸(水田面積4ha以上の農家)

集落営農組織 53組織(うち 農事組合法人9、特定農業団体に準ずる組織14)

○活動内容及び成果

平成23年度から、県外の先進経営体の講演や関連事業の説明などの経営改善・法人化に向けた研修会等の開催により、法人化を推進するとともに、経営改善のための新規品目(新規需要米、園芸作物等)の提案等も行いました(写真1、2)。

法人化の意向をもった農家や組織に対し、福岡県農業経営アドバイザーの派遣を行い、具体的な経営方向の助言や法人化への道筋の提案を行いました(写真3)。

その結果、平成23、24年度の2か年間に、新たに4戸の個別大規模農家、2つの集落営農組織が法人化しました。



写真1 集落営農組織交流研修大会
(H24.1.25)



写真2 個別大規模経営者交流研修大会
(H24.12.7)



写真3 福岡県農業経営アドバイザー派遣
集落営農組織法人化検討

○今後の取り組み

今後も、研修会や専門家の派遣を活用して、個別大規模農家や集落営農組織の法人化を推進していきます。

(5)『環境保全型農業直接支援対策』を活用した、水稻での環境保全型農業の推進

～水稻での取り組み面積増加に伴い、エコファーマー認定者も増加～

普及指導センターは市町等関係機関と連携して、水稻での福岡県減農薬・減化学肥料栽培認証者を中心に、集落座談会や部会の研修会・講習会等で、環境保全型農業直接支援対策(レンゲやナタネあとの水稻減・減栽培への助成)について推進を行い、管内の取り組み面積は77haとなり(県全体の約25%)、エコファーマーも新たに64名が認定されました。

○背景

農業分野において、地球温暖化防止や生物多様性保全に積極的に貢献していくため、より環境保全に効果の高い営農活動(レンゲやナタネあとの水稻減農薬・減化学肥料栽培)の普及推進を図る必要から、平成23年度より国の『環境保全型農業直接支援対策』が実施されています。

管内では、水稻での福岡県減農薬・減化学肥料栽培認証者が多いことから、この対策を活用するための推進・支援を行いました。

○対象概況

水稻での福岡県減農薬・減化学肥料栽培認証者 750戸(延べ)、認証面積 655ha

○活動内容及び成果

平成23年度から、水稻での福岡県減農薬・減化学肥料栽培認証者を対象に、市町・県関係機関と連携し、集落座談会や部会の研修会・講習会等で、国の『環境保全型農業直接支援対策』を活用して、水稻前作のレンゲやナタネの播種や、エコファーマー認定の推進・支援を行いました。

その結果、平成24年度には、管内での取り組み面積は77haと広がり(図1)、福岡県全体の取り組み面積の約25%を占め、さらに、平成23～24年度で、エコファーマーも新たに64名が認定されました(図2)。

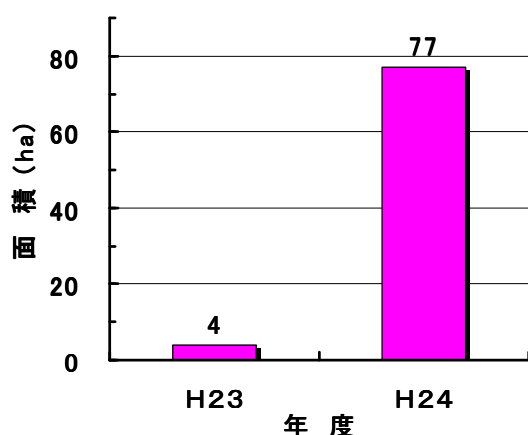


図1 管内の水稻での環境保全型農業直接支援対策取り組み面積

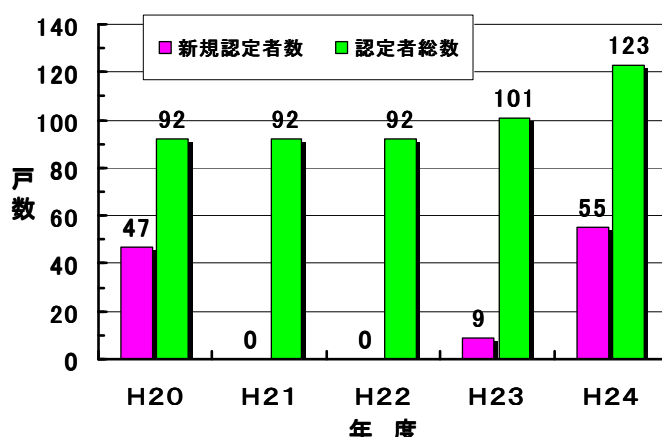


図2 管内の水稻でのエコファーマー認定者数

○今後の取り組み

平成25年度からは、レンゲやナタネあとのに加え、堆肥施用あとの水稻減・減栽培も対象となる予定なので、更なる取り組み面積の拡大に向け、推進していきます。

(6) 早期作型に適したイチゴ苗づくり

～適期作業による良苗生産と年内収量の向上～

イチゴの早期作型に適した苗づくりのため、講習会や個別巡回指導、栽培管理情報の発信を行いました。その結果、8月上旬の調査で、クラウン径 8mm 以上の良苗の割合が管内平均で 57%となり、前年度と比べ 3%増加しました。また、病虫害防除の徹底ができたことから、平成 24 年産は健全な苗を生産することができ、年内金額を前年比 115%と高めることができました。

○背景

イチゴ「あまおう」への品種更新に伴い、花芽分化が遅いこと、早期作型では2番花房分化が遅れやすいことから、徐々に苗の切り離し時期が遅く、普通ポット作型の割合が高くなっていました。このため、年内の高単価時期の出荷が少なく、総収量も県平均と比べて少なくなっていました。

年内収量及び総収量の向上による所得向上を目標に定め、早期作型の作付割合を高めるため、育苗開始を早くする取り組みを推進しました。

○対象概況

JA直轄イチゴ部会員 27 戸 6.6ha

JAふくおか嘉穂イチゴ部会員 49 戸 8.1ha

○活動内容及び成果

JAふくおか嘉穂、直轄イチゴ部会員に対して、苗づくりのための講習会や個別現地巡回指導、栽培管理情報の発信を行ない良苗育成を支援しました。その結果、平成 24 年産では良苗(クラウン径 8mm 以上)の割合が、管内平均で 57%と平成 23 年産と比較して 3%増加しました(図1)。また、病虫害防除を徹底できたことから、健全な苗を生産することができました。

早期作型に適した良苗を生産することができ、低温年に関わらず、出荷量の落ち込みが少なく、年内金額が前年の 115%となりました(表1)。

表1 管内イチゴの平成 24 年度年内実績

	面 積	戸 数	平均 面積	年内 数量	年内 金額	早期 作型
県全体	97	98	100	69	85	45
管内2JA	99	97	102	86	115	45

注) 数値は前年比%、早期作型は 9 月 18 日までの定植で、H24 年度の割合%

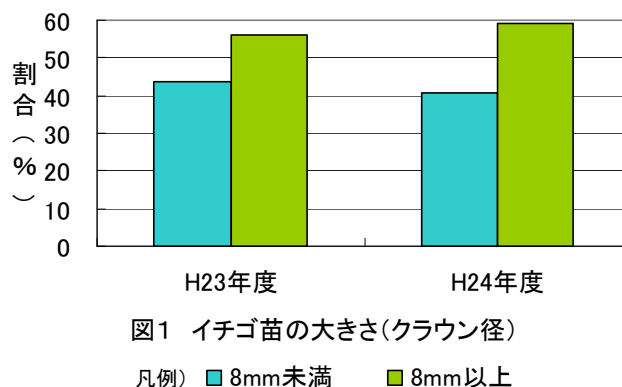


図1 イチゴ苗の大きさ(クラウン径)

○今後の取り組み

年内収量の安定性を高めるため、さらに大苗(クラウン径 10mm 以上)育成を推進します。次年度の親株管理、育苗管理が適切に行えるよう、指導を徹底していきます。

(7)直売所への出荷拡大に向けた営農講座の開催

～元気な担い手を確保して直鞍農産物の販売力アップ～

直鞍農産物の直販拡大推進会議は、宮若市内で直販用野菜等の生産・出荷予定者を対象に、営農講座、現地視察研修を行いました。

営農講座では、土づくり、肥料、農薬等基礎と、野菜等の各論、現地研修会では直売所、インショップ出荷用生産ほ場、早出し出荷のほ場視察を行い、毎回 30 名以上の参加が、営農基礎の理解を深め、トンネルを利用した早出しタマネギの試作も始まりました。

○背 景

直鞍地域は、直売所やJAインショップによる直売が盛んに行われています。しかし、高齢化により直売所出荷者や出荷量が減少してきており、新規生産者の確保が課題となっています。

新規生産者確保のため、直販拡大推進会議(普及指導センター、JA 直鞍、宮若市)を組織し、直販を考えている方を対象に作物を栽培するにあたって必要な基礎的な土づくり等の営農講座を開催しました。

○対象概況

宮若市内で野菜等栽培を始める、もしくは始めたばかりの方を対象に、市広報誌、JAだよりを通じて募集し、営農講座の受講を希望した方 43 名。

○活動内容及び成果

講座の内容は、表 1 のように、座学は栽培技術の基礎を中心に、現地視察研修は直売所出荷中心ほ場、インショップ中心ほ場、トンネル資材を利用した早出し出荷ほ場 3 か所で行いました。

現地視察では、栽培者から播種時期、組合せ品目などの話と、「栽培のコツ」の情報交換が盛んに行われました。参加者と栽培者との面識が出来たことで、今後の情報交換も期待できます。講座には、毎回、30 名以上の参加があり、早出しタマネギ栽培の試作が始まるなど、直売所や産直部会への出荷者や出荷品目、出荷量の増加が期待されます。(写真 1)

表 1 宮若市営農講座開催スケジュール

回	開催月	内 容
第1回	6月	○土づくり、作物を栽培するための基本
第2回	7月	○キャベツ、ブロッコリーなどの苗作り ○肥料について
第3回	9月	○葉菜類の栽培 ○農薬について ○花き栽培について
第4回	10月	○現地研修会(野菜ほ場)
第5回	1月	○春まき野菜の栽培管理 ○果樹苗木の植え付けと管理
第6回	2月	○現地研修会(野菜ほ場)



写真1 現地研修会の様子

○今後の取り組み

今後は、各品目別の講座や生産者のレベルアップのための講座を行う予定です。

(8)ケイトウ共販出荷量が大幅に増加！！

51

JA	
51	JA

○背 景

○対象概況

JA

16 83a

○活動内容及び成果

8

1

38%

51

JA

2

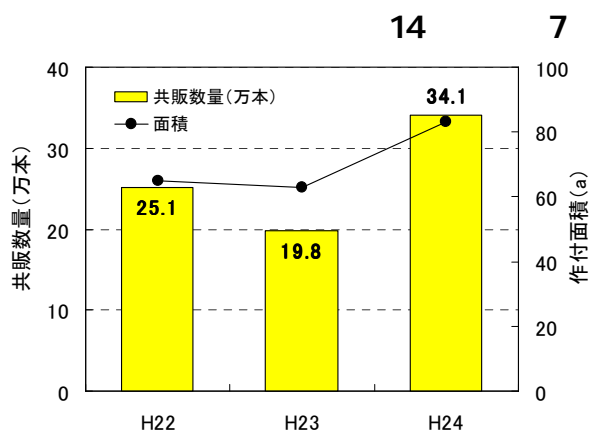


図1 ケイトウ共販数量および作付面積



写真1 主要品種の赤色ケイトウ

○今後の取り組み

1

7

9

(9)秋出しトルコギキョウ産地がついに共販数量 20 万本突破！

JA	
24	20

○背 景

JA		11
JA		
JA	4	

○活動内容及び成果

	24
20	

表1 生育時期に応じた管理のポイント

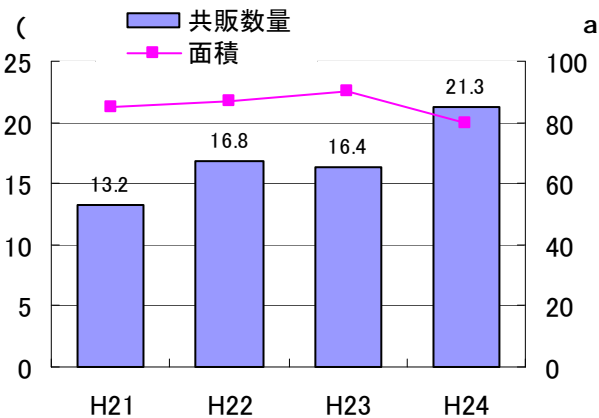


図1 トルコギキョウ 共販数量と面積

○今後の取り組み

(10)「とよみつひめ」産地拡大と経営安定

～面積拡大と収量・品質アップ～

普及指導センターはJAと連携し、新規栽培者講習会の開催や既存栽培者への個別巡回指導により、イチジク「とよみつひめ」の栽培面積が6.8haまで拡大しました。また、JAふくおか嘉穂いちじく部会には光殺菌装置が導入され、より高品質な「とよみつひめ」を消費者に届けることができるようになり、輸送費も軽減されました。

○背景

イチジク「とよみつひめ」は、平成18年の導入開始から順調に拡大してきており、平成23年度には栽培面積6.2ha、栽培者数49名になりました。しかし、さらに市場競争力を高めて産地の強化を図るためには、より一層の面積拡大と高品質果実生産が求められています。

○対象概況

JA直鞍いちじく部会員 17戸 1.6ha
JAふくおか嘉穂いちじく部会員 32戸 4.6ha

○活動内容及び成果

新規栽培希望者説明会や既存栽培者に個別巡回指導を行った結果、管内の栽培面積は6.8haまで拡大しました(図1)。また、新規栽培者と既存栽培者の講習会を別々に開催し、植え付け方法や枝管理を濃密に指導したところ、出荷量が大幅に増加し平成21年度の4.4倍となりました。

本年度、JAふくおか嘉穂いちじく部会にイチジクの日持ちを良くする光殺菌装置が導入されました(写真1)。普及指導センターは、装置の効果を、輸送試験のデータを用いて部会に説明しました。導入後、東京へのエア便が陸送に切り替わったことで、輸送費が軽減されました。

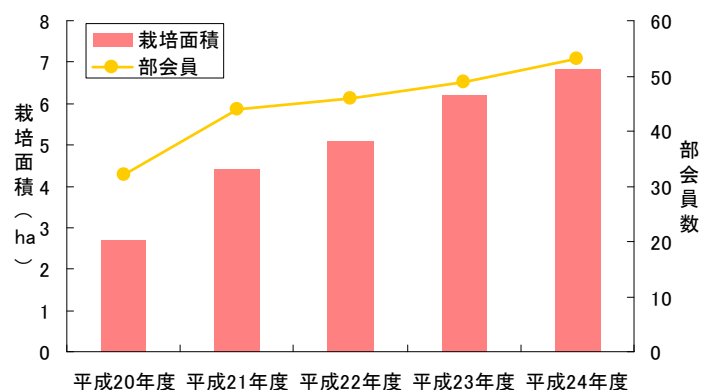


図1 管内の「とよみつひめ」の栽培面積



写真1 導入されたイチジク光殺菌装置

○今後の取り組み

イチジク栽培は降雨の影響を受けやすく、裂果やショウジョウバエが多発し、収量が減少します。そこで、施設化とシートマルチ栽培を推進し、雨に強いイチジク栽培を確立していきます。

(11)注目の新品种・新技術の紹介

(1)「飼料用米における水稻育苗箱全量施肥法の普及拡大」

○要約

10 18 (60)

1 1
105%

1.2

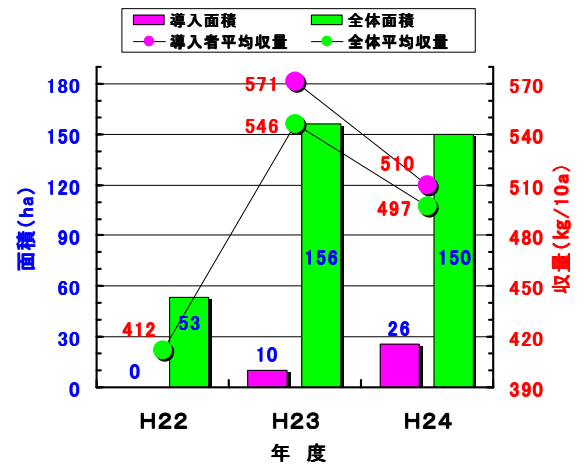


図2 新技術を導入した飼料用米の面積と収量
(JAふくおか嘉穂管内)

○今後の取り組み

2

覆土
催芽籾
床土
苗箱まかせ

図1 水稻育苗箱内の配置



(2)「ブドウ「シャインマスカット」の適正結果量の指標づくり」

写真1 専用肥料(苗箱まかせ)を入れた苗
(白い粒が、専用肥料「苗箱まかせ」)

○要約



写真1 果房重 611g の房

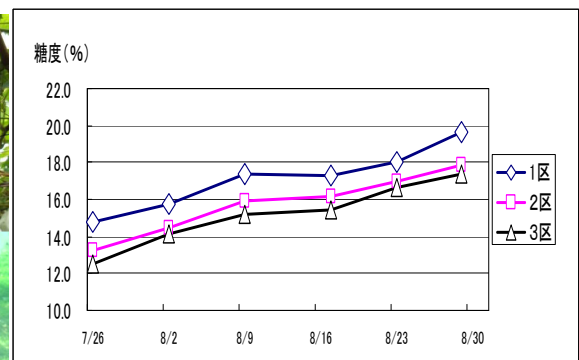


図1 糖度の推移(デジタル糖度計)

凡例)10a 換算収量 1区:1580kg、

2区:1710kg、3区:2150kg

1,600kg

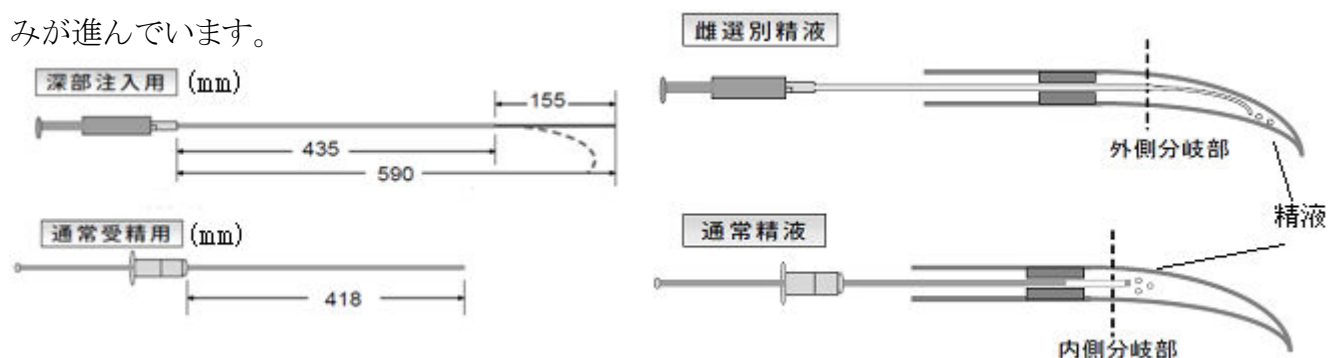
○今後の取り組み

600g

10a

(1 1)

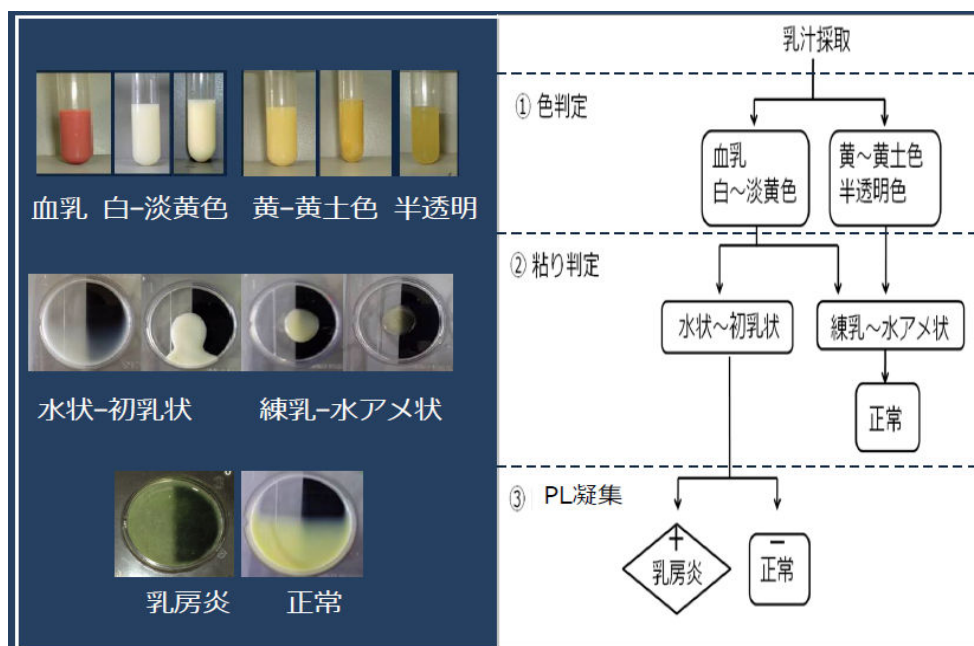
通常の人工授精用精液と比較して受胎率が劣るが、90%の確率で雌が生産される性選別精液の授精に際して、受胎率の向上が見込める牛深部注入用カテーテルの利用を進め、酪農で効率のよい後継雌牛の自家生産の可能性が期待されています(図1、図2)。本年度は6戸で取り組みが進んでいます。



『新技術導入広域推進事業(国庫事業)』を活用し、管内酪農家における実証展示を行い、当技術の普及推進を図ります。

分娩予定日7～10日前の乾乳牛から採取した乳汁を福岡農総試が開発した検査チャートとPLテストにより乳房炎診断し、早期に乳房炎罹患分房を特定・治療することで分娩後の高乳量期の廃棄乳が減少し、所得ロスを低減できます。現在、5戸で実証展示を行っています(図1)。

県酪農協支所と連携し、実証展示結果を活用し、管内農家への広範な普及を推進します。





昨年 6 月 22 日、総理官邸において内閣府男女共同参画大臣が表彰する「平成 24 年度女性のチャレンジ賞」を、飯塚市の奥野美代子さんが受賞されました。

当表彰は、起業、NPO法人等での活動、地域活動等にチャレンジすることで輝いている女性や女性団体・グループを顕彰し、身近なモデルを示すことによって男女共同参画社会実現のための機運を高めることを目的に実施されています。

奥野さんは、女性農業者による「元気な筑豊を目指す農業女性の会」を発足させ、地元市町やJA等各機関に農業委員等への女性登用を働きかけるなどの活動を行いつつ、地域で農業分野における女性の経営参画を推進し、県認定農業者組織協議会の女性部会を設立、会長となるなどネットワークの構築にも尽力されたことが高く評価されました。

また、栄誉ある表彰を讃えて、福岡嘉穂農業協同組合の大塚組合長が代表発起人となり、12 月 9 日に女性農村アドバイザーOBや指導農業士、県認定農業者協議会、JA女性部など 222 人の出席による盛大な祝賀会が行われました。

奥野さんは「今後も、この受賞を糧として、女性農業者が明るく元気で能力を発揮できる社会づくりに、より一層尽力したい。」とおっしゃっています。

普及指導センターも、女性農業者の経営参画や社会参画の促進等に対する活動支援を行って参ります。



嘉麻市 小山花園

10年に1度の世界最大の花の祭典『フロリアード 2012』

－ 世界の品種コンテストで『フロリアード賞』を受賞！ －

嘉麻市の小山花園で栽培されているスカビオサが、フロリアード 2012 の品種コンテスト『春の切花部門』においてフロリアード賞を受賞しました(受賞品種名:ロコスカールレット)。

『フロリアード』とは、オランダで10年に1度開催される花の国際園芸博覧会のことで、世界最大の花の祭典です。世界中の花が集まることから『花のオリンピック』とも言われています。1960年にロッテルダムで第1回目が開催され、今回で6回目となり、『自然と調和する人生』をテーマに、平成24年4月5日から10月7日まで開催されました。

期間中には公式な品種コンテストが開催されました。出品はオランダのみならず世界中からあり、日本からは生産者や種苗メーカー等からの出品がありました。小山花園は10年程前からスカビオサを栽培しています。育種では花色や花型だけでなく、花持ちやステムの硬さなど花屋の使いやすさも重要な要素としています。今後も新たな品種の出荷が期待されており、普及指導センターも支援を行って参ります。



ロコスカールレット



飯塚市 宮崎重治 氏

農業後継者・新規就農者の育成・確保に貢献

－ 福岡県農業指導功労者表彰を受賞 －

長年にわたって農業青年の確保・育成に熱心に取り組む、福岡県農業の持続的発展に大きく貢献した農業指導者の功績を讃える表彰を、指導農業士・宮崎重治さんが受賞されました。

昭和61年から数多くの農業研修生を受け入れられると共に、良き相談者として幅広い人材育成を行ってこられた宮崎さん。

「この賞をいただいたのは、研修生の生活を支えてくれた妻の努力があったからこそ。」と感謝の気持ちで、地道な農業青年の育成確保活動を続けてこられた秘訣だと思います。

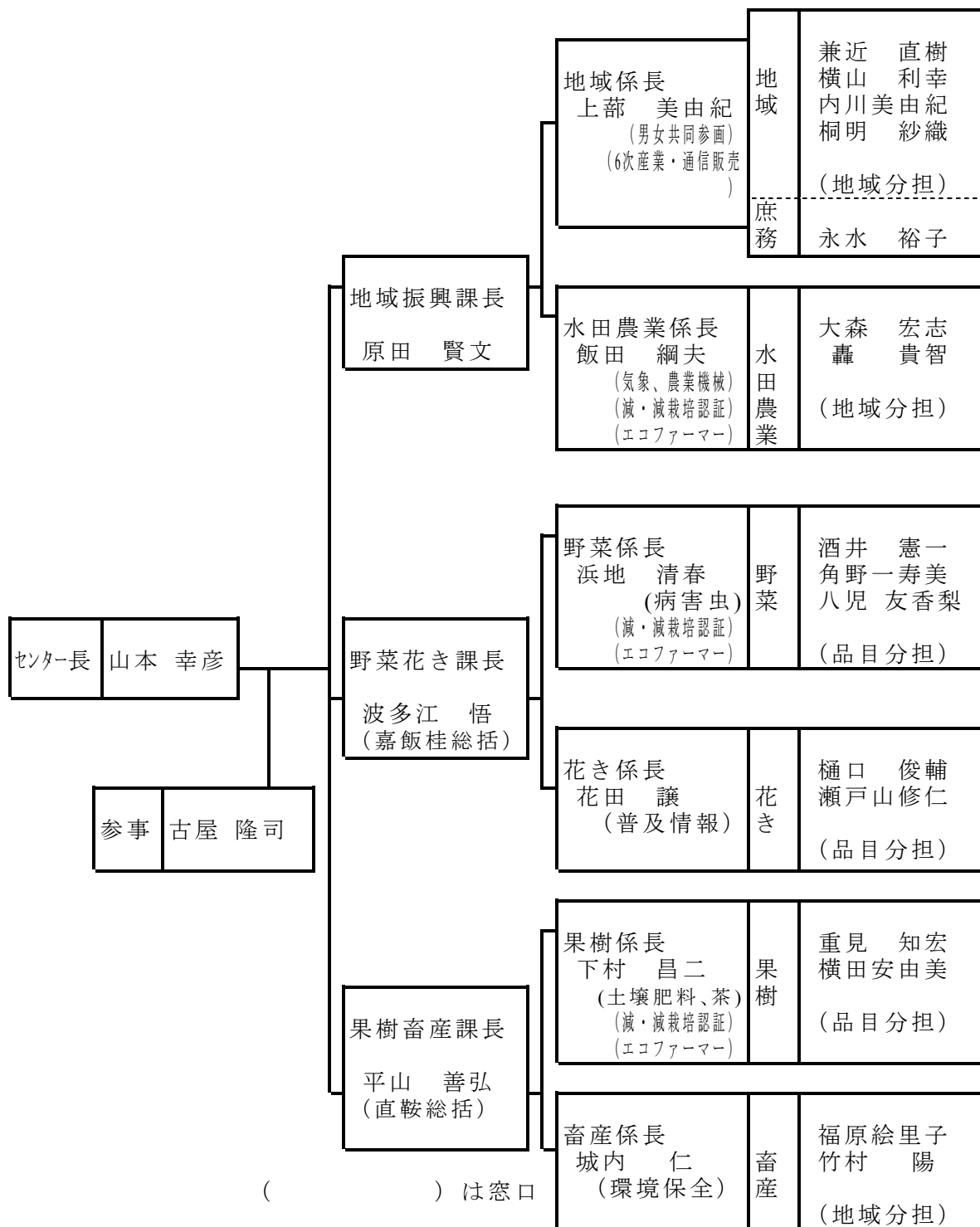
普及指導センターは、農業士の方々と共に、今後も農業後継者や新規就農者の育成確保に向けた支援を行って参ります。



宮崎重治氏

各種表彰(国・県) 一覧 (1月～12月)

表彰事業名	受賞者・組織	受賞内容	市町名
内閣府 女性チャレンジ賞	奥野 美代子		飯塚市
フロリアード 2012 特別賞	小山 修一	フロリアード賞 (春の切花部門)	嘉麻市
福岡県農業指導功労者 表彰	宮崎 重治		飯塚市
第48回肉畜共進会	武田 英文	金賞 (交雑種の部)	田川市
平成24年度福岡県女性 農業者起業化フォーラム	長野 路代	優秀賞	飯塚市
福岡県大豆作経営改善 共進会	筑穂町農作業受託組合	県米・麦・大豆づくり協 議会会長賞 奨励賞 (集団の部)	飯塚市



()

(2) 現地実証・展示ほ一覧

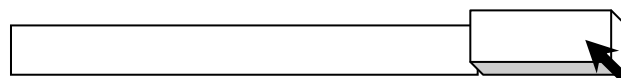
No.	課 題 名	内 容	場 所	事 業 主 体
1				
2				
3				
4	NK			
5				
6	H			
7				
8				
9				
10	NK301			
11				
12				
13				
14	N400			
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25		EOD Li gti ng		
26				
27				
28				
29				
30	3000			
31				
32		15 16		
33				
34				
35				
36				
37				

No.			
1		4 13	
2		4 25	
3		4 25	
4		5 23	
5	12%	5 25	
6	JA	5 28	
7		5 31	
8	30	6 4	
9		6 11	
10	5	7 5	
11		7 12	

24		11 2	
25		11 6	
26		11 7	
27		11 16	
28		11 22	
29	up	11 26	
30	PR	11 27	
31		11 29	
32		12 17	
33	2 4H	12 18	
34		12 19	
35		12 27	
36		12 27	
37		12 28	
38		2 26	
39		2 26	
40	50	2 28	
41		3 1	
42		3 18	
43		3 22	

飯塚普及指導センターのホームページがリニューアルしました！

上記の「現地活動情報」も詳しくはホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。



HP <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/d05/iiduka.html>

スマートフォンでは裏表紙の QR コードからでもご覧になれます。



(4)普及指導員調査研究実施一覧

No.	課 題 名	関係部門	担当者
1	新規就農者(独立自営)が定着するための要因と課題	地域	○兼近 直樹 上 薮 美由紀 内川 美由紀
2	施設野菜・施設花き複合による大規模雇用型経営の実態と課題	地域 野菜 花き	○横山 利幸 角野 一寿美 八 児 友香梨 花田 譲 樋口 俊輔
3	小麦「ちくしW2号」のタンパク質含有率向上のための栽培管理	水田農業	飯田 綱夫
4	大豆連作圃場における収量向上のための播種方法	水田農業	大森 宏志
5	ブロッコリーの低収要因の解明と生産の安定化	野菜	浜地 清春
6	イチゴ不耕起栽培における適正施肥量	野菜	○酒井 憲一 八 児 友香梨
7	長期展張ビニルハウスにおけるイチゴ栽培の実態	野菜	角野 一寿美
8	冬出しトルコギキョウにおける栽培期間短縮のための大苗育苗技術の確立	花き	樋口 俊輔
9	「シャインマスカット」の適正着果量の指標づくり	果樹	下村 昌二
10	いちじく「とよみつひめ」無加温栽培における早期摘心による収穫期ピークの分散化	果樹	重見 知宏
11	牛用深部注入用カテータの有効性の検証	畜産	○城内 仁 福原 絵里子 竹村 陽
12	繁殖台帳WEBシステムを活用した巡回指導マニュアルの作成	畜産	竹村 陽

(5)飯塚地域担い手・産地育成総合支援協議会活動実績

部 会	課 題 ・ 計 画	成 果 ・ 実 績

